

第142号

教育



会長挨拶
三河教育研究会役員
学校自慢（田原支部）
支部トピックス（刈谷支部）
教室の窓から（みよし支部）
研究校紹介（豊川支部）
定期総会 報告
定期総会 教育講演会
本部事業
教育随想



三河教育研究会

令和6年7月10日

会長挨拶



誇りをもって、学び続ける三河教師

三河教育研究会 会長 柴田 昌一

さわやかな初夏の風が感じられた五月二十二日、蒲郡市民会館において、多くの来賓のご臨席のもと、令和六年度三河教育研究会定期総会並びに教育講演会を盛会裏に終えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、私の勤務校には、六十歳を迎え、教諭として勤める先輩が本年度も在籍しています。生徒たちは、先輩の授業を毎時間楽しみにしています。先輩は、それまでの経験に加え、教材研究を念入りにしています。今も教師としての誇りを持ち、学び続ける先輩に頭が下がります。

今、教育現場には、はじめや長期欠席をはじめ、様々な課題があります。私たちが現場が努めるべきことは、各学校の教師の力量を向上させることではないでしょうか。そのためには、教師一人ひとりが「誇りをもって、学び続けること」が大切だと考えます。三河教育研究会は、学び続けたいという先生方を支援していききたいと思います。

三河教育研究会には授業力養成講座があります。三河の各市町村で選ばれた授業者が、自ら指導を受けたい講師を指名し、授業づくりから授業までを参観者に公開します。昨年度は安城市と知立市、豊川市で、一昨年度は岡崎市と幸田町、田原市で行われました。幸田町立北部中学校では、二年生数学の授業が公開されました。

この授業で生徒に与えられた課題は、折り紙で正三角形を作ることでした。授業者の山田泰介先生は、生徒に課題の説明をしたのみで、あとは生徒が五十分間自分たちだけで活動し続けました。この授業は、中学校においても教師主導ではなく、教師が支援に回り、生徒が主体的に追究し、生徒相互の関わりで課題を解決する授業が可能であることを示しました。

さらに、授業終了後の研究協議では、ファシリテーターの山本勝秀先生が話し合いの視点を三つ示し、この視点に

沿って参観者がほぼすべての時間を使い、意見を述べ合いました。参観者は、講師から一方的に授業の講評を聞くのではなく、自分たちで意見を述べ合うことで、授業の見方や考え方を深める経験をしました。参観者自身が主体的に活動することの重要性を実感できたと思います。

ところで、岡崎市では「誰一人取り残さない教育」を目指し、「心理的安全性を確保したチームでの協働的な学び」や「校内フリースクールF組・夜間学級S組」の推進に力を入れています。このように、三河の各地域には、それぞれに特徴的な学習形態や教育方法があります。三河教育研究会では市町村教育委員会と校長会、学校の協力を得て、皆様の地元とは違った発見や学びができる研修会を実施しています。今年度の授業力養成講座は、蒲郡市、豊田市、みよし市で開催いたしますので、積極的にご参加ください。

また、三河の子供たちのための教材「文化振興会刊行物」は、「編集は三河教育研究会、刊行は愛知教育文化振興会、事業の推進は三河小中学校長会」と三者で連携し、作成しています。編集に携わる三河教育研究会の会員は、三河各地の会員と意見を交わし、子供たちに役立つ刊行物を作ること、教師としての自信と誇りをもってほしいと願っています。

先日、技術・家庭科の県の組織である愛知県中学校産業教育研究協議会において、「全国大会の研究テーマと骨子を作成せよ」との依頼が三河地区にありました。それを受けて、三河教育研究会の技術・家庭科部会で相談すると、「三河教育の特色である『はじめに子供ありき』という考え方を尾張・名古屋、県外に広める良い機会としよう」という前向きな発言がありました。三河の先生方の心意気を大変頼もしく感じました。

「三河のすべての子供に、三河の教師の手による優れた教育を保障したい」という昭和三十六年設立の三河教育研究会の理念を大切に、各教科・領域の部会・委員会においても、三河の教師としての誇りを持ち、自ら学び続け、十九万余の三河の子供たちが健やかに成長できるように支えていきましょう。

結びに、関係諸機関の皆様方、諸先輩方、どうぞいつそのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和六年度 三河教育研究会役員

会長

岡崎 葵中 柴田 昌一

副会長

豊橋 汐田 中 柴田 昌一

顧問

豊田 末野原中 平井 千夏 夏目 貴司

会計監査

豊田 逢妻 中 吉野 登一朗 薫

幹事

岡崎 六ツ美北郡小 伊藤 孝明 夫 深津 伸司

庶務

愛教大 附屬岡崎中 大槻 真一郎 岡崎 信一郎

會計

愛教大 附屬特別支援 稲垣 修一 川合 陽介

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

評議員

愛教大 附屬岡崎中 鈴木 明 鈴木 明

生活科 岡崎 豊富小 加藤 環 高 浜 幸 田 三吉小 佐久間 章貴 門脇 博志

音楽 岡崎 豊富小 加藤 環 高 浜 幸 田 三吉小 佐久間 章貴 門脇 博志

造形 岡崎 豊富小 加藤 環 高 浜 幸 田 三吉小 佐久間 章貴 門脇 博志

保健体育 刈谷 かりがね小 石田 則一 伊藤 美佳

技術・家庭 刈谷 富士松東小 多田 柳 豊 坂小

英語 刈谷 富士松東小 多田 柳 豊 坂小

総務委員会

委員長 北設 東栄中

副委員長 愛教大 附屬岡崎中

委員 安城 安城北郡小

委員 豊田 常磐小

委員 豊田 常磐小

委員 豊田 常磐小

委員 豊田 常磐小

（各種研究委員会）

学習情報 岡崎 南中 岡崎 秀之

学校図書館 西尾 八ツ面小 今本 政勝

統計教育 安城 三河安城小 濱田 孝之

生徒指導 豊田 猿投中 後藤 誠二

へき地教育 豊田 稲武小 藤田 定

（支部長）

（支部長）

豊橋 東陵中 一宮東部小

豊川 三谷小 鳳来中

北設 東栄中

北設 東栄中

北設 東栄中

北設 東栄中

岡崎 豊富小 加藤 環

岡崎 豊富小 加藤 環

岡崎 豊富小 加藤 環

岡崎 豊富小 加藤 環

岡崎 豊富小 加藤 環

岡崎 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

豊橋 豊富小 加藤 環

調査委員会

委員長 豊橋 汐田 中

副委員長 愛教大 附屬岡崎中

委員 愛教大 附屬岡崎中

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

委員 豊橋 豊富小

ふるさと若戸

田原市立若戸小学校

自然豊かで施設園芸が中心の温暖な農村地帯にある本校は、渥美半島の中南部に位置しています。学校の南側は太平洋に面し、北側には「小山」と呼ばれる標高約九十メートルの山があります。子どもたちは、小山が大好き。長い放課には、この山で存分に遊びます。また、山や海は、学習の教材としても大いに役立っています。

子どもたちが楽しみにしている行事の一つに、春の遠足があります。保護者や地域の方の協力を得て、海岸清掃や地引き網、イチゴ狩り体験を行っています。まず、学校から海岸までは、縦割り班で少し長い道のりを歩いて移動します。疲れてきた下級生を気遣って高学年の子が声をかけます。海岸に到着すると、まずは清掃活動です。外国から漂着したと思われるものを見つけた時には、海を介した外国とのつながりに思いを馳せる子もいます。

次に、地引き網。網を引く綱の重さに必死になる姿、網に入った魚を手づかみし、興奮する姿が多く見られます。獲れ



たくさん魚がとれた！

た魚は、各家庭で味わってもらえるよう配ります。その後、子どもたちは、赤羽根海岸に移動し、縦割り班でお弁当を食べ、一年生歓迎会を行います。遊んだ後はイチゴ農園へ移動し、お腹いっぱいイチゴをいただきます。

この行事の中に、若戸校区の素晴らしい凝縮されています。子どもたちは、地域の自然の豊かさ、産業の素晴らしさ、そこに暮らす人々の熱い思いに触れ、「ふるさと若戸」のよさを実感します。そして、「ふるさと若戸」に誇りをもつ子どもが育っているのです。

(文責・高橋 利紀)

支部 トピックス

一人の生徒の思いから始まった

支援の輪

刈谷市立雁が音中学校

冬休み明けの一月九日、一人の生徒が「能登半島地震で被災した人たちのために募金したいのに、その場所が身近にない。どうしたらよいのか」と生徒会役員に相談しました。

その思いを受けた役員が、翌朝、全校放送で募金を呼びかけました。その二日後から募金活動が始まると、連日「ありがとうございませう」の声飛び交い、朝の学校に生徒たちの明るい笑顔が溢れましました。



明日も募金活動、がんばるぞー！

同時期、刈谷東中学校生徒会の呼びかけで、オンラインによる臨時生徒会サミットが開催され、市内六中学の代表生徒約二十人が被災地支援について意見交換を行いました。その会の中では、「自分たちと同じ中学生のためになったらう

れしい」「地震の現状をより多くの人に知ってもらうことで、募金活動に協力してもらいたい」といった様々な思いが語られ、最終的に地元を離れて他地域で授業を受けることになった、輪島市と珠洲市等の子どもたちのために役立ててほしいと考えがまとまりました。

一人の生徒の温かな思いを生徒会役員が受け止めて校内に呼びかけ、それが市内の全中学校の取組となり、さらに、小学校へも支援の輪は広がっていきましました。その結果、多くの義援金が集まりました。

後日、本市に届いた感謝の言葉の一節を紹介します。

「未だ、多くの子どもたちが避難所から学校に通っています。しかし、教室では子どもたちの元気な声が響き、笑顔が見られることをうれしく思います。この子どもたちのために、刈谷市の小中学生が学校の枠を超えて、思いを一つに集められた尊いお金を送っていただき、心からお礼を申し上げます。今回の恩を忘れず、子どもたちと前を向いて生きていきます」

遠く離れた土地にいたとしても、被災された方のつらさや悲しさに思いを馳せ、自分たちにできることを探し、自ら行動に移す生徒たちの姿に、胸を打たれます。

これからも、大切な存在である子どもたちが、互いに助け合い、未来に希望をもって、共に成長していく姿を支えていきたいと思っています。

(文責・木野 昌孝)

教室の窓から

つながり、助け合い、 成長する

みよし市立緑丘小学校

児童が学校生活で楽しみにする時間の一つが給食の時間です。にこにこの笑顔が広がるすてきな時間ですが、そんな時間にもトラブルはつきものです。

給食当番がシチューの食缶を落としてしまうことがありました。残った中身は半分程で、責任を感じた当番の児童はその場で大泣きしてしまいました。すると、当番の児童を「重いもんね、仕方ないよ。」と慰めたり、雑巾を持って来て手際よく片付けを手伝ったり、当番の児童が立ち直るまで代わりに配膳を行ったりする児童がたくさんいました。様々な役割を大人の指示なく分担して行う姿を見て、成長したなと心から感じました。「今日はみんな少なめで我慢だね。」という周囲の児童から出た言葉が、雰囲気は温かくしてくれました。

その日の午後、一人の児童が「失敗しても責めなかったから、みんな偉いし、優しいね。」と話し始めました。「僕もそう思う。文句言わなかったから。」「み



友達と一緒にだから成長できたね

んなで協力した味がした。」と、児童らは口々に話していました。「失敗することとは誰でもある。責めずに、自分にできることを見つけて助け合ったことを先生は誇りに思う。」と伝えました。「変だね。失敗したのに褒められたよ。」という声をきっかけに、教室が笑いの渦に巻き込まれました。

『失敗は成功のもと』という諺があります。何か起きたとき、対応することにより目が行きがちですが、目の届きにくい部分で、児童は支え合ったり、助け合ったりして生活しています。「失敗したね。次どうする?」を合言葉に過ごした一年を振り返り、自分自身も失敗から学ぶことを大切に、広い視野をもっていきたいと思っています。

(文責・田中 宏明)

研究校 紹介

思いや考えを語り、自己の成長を認め、学びを深める子の育成
～協働と対話、学びの場をとらえ直した教育活動を通して～

豊川市立千両小学校

本校は外国にルーツをもつ児童が全校の約20パーセントを占め、四つの障害種別の特別支援学級を開設しており、まさに多様性に満ちた学校といえます。こうした特性を背景にした本校は、明るく穏やかな人柄の児童が多いですが、自分の思いや考えを表現しきれない様子も見られました。

子どもたちの生きる未来、社会は日々めまぐるしく変化し、ますます多様性に満ちると予想されます。そのような社会を生き抜く力をつけていくためには、多様な仲間と関わり合い、様々な考えにふれながら、居心地のよさや楽しさを感じ、ともに成長していくことが必要だと考えました。そこで、「思いや考えを語り、自己の成長を認め、学びを深める子の育成」を研究主題とし、実践を重ねてきました。

本研究では、人間関係部会と学習部会、それぞれのアプローチから実践を行っています。人間関係部会では、思いやりの心を育み、子ども同士のつながりをより密にすることができるよう、「たてわり班活動」において、異年齢の子ども同士が協力する場を意図的に設定し、活動に取り組んでいます。

学習部会では、授業の山場となる場面において、子どもの主体性を引き出す場、多様な考えにふれる場、学びを深める場を設定することで、子どもは「できた・わかった」を実感し、自己の成長を実感していくのではないかと考え、実践を進めています。

このような取組により、学校生活のあらゆる場面、思いや考えを伝え合う姿が見られるようになってきました。今年度は、友達の考えをわかって、自分の考えをわかってもらおうという気持ちからに強まるように「話す・聞く」のスキルアップを意識した授業に取り組んでいます。

(文責・亀甲 真史)



身を乗り出して思いを伝える

令和六年度 定期総会 報告

五月二十二日（水）蒲郡市民会館

五月二十二日（水）、令和六年度三河教育研究会定期総会・教育講演会が、約九百名の会員と来賓の先生方のご臨席を得て、盛大に行われました。

定期総会では、まず本年度の役員が承認され、柴田昌一会長を中心とした新体制が発足しました。

柴田会長はいさつの中で、三河教育研究会が実施している授業力養成講座について語られました。教師主導ではなく、児童生徒が主体的に追究し、相互に関わりながら課題を解決する授業のよさを伝えられました。また、協議会では、参観者が自ら意見を述べ合うことで、授業の見方や考え方を深めるよい機会となっていると述べられました。さらに、三河各地にはそれぞれ特徴的な学習形態や教育方法があり、新たな発見や学びができる研修会が開催されることを伝えられました。最後に、三河教育研究会の「三河のすべての子供に、三河の教師の手による優れた教育を保証したい」という理念のもと、三河の教師としての誇りをもち、自ら学び続け、十九万余の三河の子どもたちが健やかに成長できるように努めて参りましよう」と会員に語りかけました。

就任のあいさつに続き、ご臨席の来賓を代表し、蒲郡市長の鈴木寿明様、愛知県教育委員会教育長職務代理者の岡田豊

様からご祝辞をいただきました。

鈴木様からは、蒲郡市が「子どもファースト」を市政の柱と掲げていることや、地域・行政が家庭・学校を支え、一緒になって教育活動を進める大切さについてお話をいただきました。また、三河教育研究会の教育への情熱と郷土愛に満ちあふれた活動について共感していただきました。

岡田様からは、子どもの主体的な学びを支援し、対話的で深い学びの実現に向けた、弛まない授業改善の積み重ねが、学校教育の根幹を支える大切な活動であるとし、示唆いただきました。三河教育研究会が新たな時代の幕開けにふさわしい学校づくりを進めてほしいと、激励の言葉をいただきました。

ご祝辞ののち、ご臨席いただいた前副会長の後藤理恵先生に前年度の活動にご尽力いただきましたことへの感謝状を贈呈しました。なお、前会長の鈴木佳樹先生、前副会長の石川雅春先生には後日のお渡しとさせていただきます。

それに続き、令和五年度の事業報告・決算報告、令和六年度の事業計画案・予算案について、すべての議案が賛成多数で承認されました。

当日は、多くの皆様のご協力により、盛会裏に終えることができました。

教育講演会

演題 「みんな幸せってどんな世界子どもへのまなざし」

～ぼくが作った歌と絵本～

講師 絵本ライター シンガーソングライター 中川ひろたか氏
聞き手 愛知教育大学附属岡崎中学校 教諭 鈴木 朝弓

今年度の教育講演会は、絵本ライターでありシンガーソングライターである中川ひろたか様をお招きし、歌と絵本の朗読を交え、愛知教育大学附属岡崎中学校の鈴木朝弓教諭と対話形式でお話をしていただきました。中川様の講演の中で、いくつか印象的な内容を紹介します。

鈴木 先生は大学を辞めて、日本初の男性保育士として活躍されていたとお聞きしました。

中川 末川博さんの「法律というのは人



を縛るものではなくて、人を自由にするものなんだ」ということが書かれている本に感銘を受け、大学の法学部に通っていました。しかし、法律の勉強は面白くなく、オーケストラ部でホルンを吹いていた。そして、この暮らしを続けているうちに、自立心みたいなものが出てきて、「大学を辞めて働きたい」と思うようになりました。

年の離れたいとこがいて、お正月などに家にやってきました。私は子どもたちを連れて公園に散歩行くと、子どもは意味もなくジャンプするなどして歩いていきます。また、子どもは道でいつも歌を歌っています。私も歌が好きだけれど、子どものように歌いません。棒切れを持って、ガーツと壁をひつかいたり、マンホールの穴に小石をポトンと入れたりするのを見て、「こいつら、何だろう」と思ったのです。そこで「子どもは面白いな」と思ったのです。人間の本质というか、基のところは、やっぱりガーツとやったり、ポトンとやったり、歌を歌ったり、ジャンプしたりするところにあるのではないかと思います。人の本質というものを、このような子どものところにあると

令和六年度 本部事業

生きる力を育成する三河教育

〈学び合い、学び続ける教員として〉

総務委員会

三河教育研究会（以下三教研と表記）は、創立六十三周年を迎えました。子どもを中心据え、生きてはたらく資質・能力を育む教育活動を追究し、これまで多くの成果をあげてきました。

国は、教育課程について、「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす『協働的な学び』の一体的な充実が図られることが求められる」としています。さらに、一人一台のICT端末が行き渡り、生成AIの扱い方が話題に上る昨今、私たちは、これまで三教研が進めてきた「子どもありき」の授業づくりの継承・深化と、成果の発信が、今まで以上に求められています。

本年度も、三教研の各部会・委員会による魅力と実効性のある研修活動を計画しています。また、教育研究におけるミドルリーダー養成のために、授業力養成講座を引き続き開催します。ぜひ、ご参加いただき、学びを地域や学校に還元していただきたく存じます。

なお、三教研の取組や各学校で実践された学習指導案などをウェブページや会報「教育 みかわ」を通して紹介・共有していきます。会員の皆様からの情報提供をお待ちしています。

アドレス: <https://www.sankyouken.jp/>

ことで、子どもたちも寄って来て、子どもが見えてくるということがありました。私にとつて象徴的な出来事でした。

鈴木 たくさん絵本を書かれていますか、思い出深い本はありますか。

中川 あなたの好きな絵本はなんですか。

鈴木 『ないた』です。

中川 絵本の作り方っていうのは、大体編集者がいて、作品を書いてもらいたいという依頼がきます。「どんなお話にしますか」と聞くと「中川さんの哲学を、絵本にしてほしい」と言われました。考えて、大体アイデアが思いつくのは明け方の布団の中です。明け方、目が覚めて、まだ布団から出られない状況の時にいいアイデアが浮かびます。『泣く』というテーマ。『涙』というテーマは「かなあ」と思いました。いろいろな涙があります。そのテーマが思い浮かんだのは、子どもの頃、母親の布団の中に入って話をする時、母親の目から涙が枕に落ち、それを私が拭いてあげたという記憶がありました。そういう涙もあるということを軸に、転んだりぶついたりして泣いた内容をつなげて構成ができました。母は明るい人だったので、これまで暗い絵本はあまり書いていないです。また、歌も明るい方がいいです。絵本も歌も明るい方がいいです。

たくさんの歌と絵本の朗読で、参加者を楽しませていただきました。

したら、自分の本質もそこにある。母親から生まれたその時から、社会性を身に付けていくわけですけど、社会性のない本当の子どもたちにこそ人としての本質があるのではないかと、考えたわけです。そして、一人二人の年の離れたいとこだけではなくて、もっといろいろな子どもたちを見たりしました。「どうやって言葉が発するのかわかるのか」という、人の基のところに興味をもちました。それで、保育園の先生になろうと思いました。しかし、保育園の先生は「女性に限る」という児童福祉法があったので、用務員として働いていました。後に男性保育士連絡会の運動により男性でも試験を受けられるようになり、資格を取得しました。

鈴木 保育士をされている中で、子どもの姿で感動したことはありますか。

中川 最初は子どもを観察していました。そのようにしていたら、子どもは寄って来ないし、寄って来ないと子どもも見えてこないという状況でした。ある時、砂山で、トンネルを掘っている子がいました。しかしトンネルを掘っても崩れてしまいい、それを繰り返していました。私は子どもの頃、トンネル掘りの名人だったので、砂を盛って固めてから掘り始めました。そして子どもに反対から掘らせました。すると小指の指の先が触れ、その後握手をしました。その時に子どもと初めて握手できた気がしました。だから、観察するのはやめて、一緒になって遊ぶ

国語部会夏季研修会	8/2	田原
国語部会書写実技講習会	7/26	岡崎
社会部会夏季研修会	8/6	岡崎
愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会	8/21	田原
理科部会夏季研修会	8/2	碧南
生活部会夏季研修会	8/1	安城
音楽部会夏季研修会	8/5	知立
愛知県造形教育研究大会	8/21	岡崎
保健体育部会夏季研修会	8/6	刈谷
愛知県小中学校家庭科教育研究大会	10/2	刈谷
愛知県中学校技術・家庭科研究大会	11/6	みよし
英語部会夏季研修会	8/2	知立
愛知県道徳教育研究大会	11/6	名古屋
特別活動部会夏季研修会	8/2	豊橋
特別支援教育部会夏季研修会	8/2	高浜
愛知県養護教育研究大会	7/26	刈谷
総合的な学習部会夏季研修会	7/30	安城
愛知県生徒指導研究大会	1/17	名古屋
愛知県学校図書館研究大会	8/23	西尾
ICT活用研究会	8/2	碧南
愛知県統計教育発表会・講演会	8/28	名古屋
愛知県へき地・複式・小規模学校教育研究大会	11/1	設楽
授業力養成講座Ⅰ(東三河)	8/21	蒲郡
授業力養成講座Ⅱ(西三河)	8/22	豊田
授業力養成講座Ⅲ(東三河・小学校)	10/21	蒲郡
授業力養成講座Ⅳ(東三河・中学校)	10/31	蒲郡
授業力養成講座Ⅴ(西三河)	10/1	豊田
授業力養成講座Ⅵ(西三河)	10/8	みよし
授業力養成講座Ⅶ(西三河)	11/6	豊田

教育随想

(95)

かわりたくなる学校



安城市教育委員会
教育長

石川 良一

元氣なあいさつが飛び交う朝の校門。

子どもたちの登校に随行してくださる「見守り隊」と子どもたちの間で交わされる「いつてらっしゃい。がんばってね」、「今日もありがとうございました。がんばってきます」のやりとり。

子どもたちが校舎に入るのを見届けると、見守り隊の何人かは、正門脇のコミュニティハウスに入っていく。

「うちの班長さん、しっかりしてるなあ。〇〇ちゃんが発時刻になっても来なかったら、さっと家まで確認に行ってくれて……」

「〇〇ちゃんと言えば、昨日の帰り道泣いとったぞ。△△ちゃんとかんかしたみたい。それと関係あるかもね。ちょっと先生に伝えてくるわ」

ら帰るわ」

ハウス内のテーブルでは、先月から始まったちぎり絵の作品づくりが始まっている。見守り隊の中のお二人が、公民館講座で学んだちぎり絵をハウスで始めたのがきっかけで、これを目当てに新しい顔ぶれも増えている。最近では、休み時間になると子どもたちも加わって一緒に創作を楽しんでいる。

お昼の休み時間になると、ハウスには多くの子どもたちが出入りする。仲良くなったおばちゃんとお話にくる子、「絵本読んでよ」と、大人の手を引いて図書室に向かう子もいる。地域の調べ学習と称して手あたり次第にインタビューしている子もいる。先日は、児童会の子が全校レクリエーションの計画を持ち込んで、

「××の通学路、ここ何日か通行禁止時間を無視して走ってくる車が危なくて。これは誰に伝えるといいかねえ」

お茶を飲みながら、子どもの様子や通学路の情報など、様々な会話が飛び交う。教室にカバンを置いてお話に加わってくる子どもたちもいる。

一時間目開始のチャイムが鳴る。

「そろそろ帰るかな。また明日」

「わしは花壇の草抜いてか

地域の人たちに協力してもらえる方法がないだろうか」と真剣に相談していた。

子どもの様子をのぞきに來た先生が、しばらく懇談していくこともある。気にかけている子の情報を共有したり、授業づくりの相談をしたりしている。日展審査員を務める陶芸家に「ねんど遊び」に関わっていただいた授業も、Bリーグの選手と一緒にバスケットボールの授業ができたのも、ここでのおしゃべりから生まれたものだ。

最近では子育て中のお母さんが連日ハウスに顔を出してくださり、ベビーカーに乗った幼児と、子どもや先生が触れ合う姿も見られるようになった。また、先月転居してみえた外国の方が、いつも一人でおられるので、一度ハウスに誘ってみようという声も上がっていた。

町内会、老人会、子ども会や地域の中の様々な悩みや課題、子どもや先生、学校が抱えている困り事や相談事が、気楽に吐き出せる空間。誰かが耳を傾けてくれ、一緒に考えてくれる、誰かと繋いでくれる空間。学校内外の子どもたちの美しい姿、素敵なエピソードを伝え合える空間。地域の未来の担い手として、子どもたちが優しくたくましく育ってほしいという願いがあふれる空間。そんなコミュニティハウスを核とした校門付近の活気に満ちた環境が、学校の防犯にも一役買っている。

これらはすべて、私の頭の中だけの妄想である。安城市は、今年度から「地域

とともにある学校づくり」に向けての取組を始めた。成果を急がず、語り合いをベースに、多様な人が交流し、多様な学びが生まれ、多様な子どもたちの居場所になる。そんな学校を拠点とした、誰一人取り残さない空気に満ちた地域が広がっていくことを強く願っている。

編集後記



三河教育研究会定期総会・教育講演会講師の中川ひろたか様が作曲した「世界中のこどもたちが」を、通勤する車の中で、いつの間にか口ずさんでいます。世界中の子どもたちが、夢と希望をもち、笑顔になれたら、きっと幸せな世界が訪れると思いつながら。軽やかなリズムが心地よく、今日も子どもたちの笑顔が見たいなど、気持ちを前向きにしてくれます。

本年度の三教研の各部会・委員会の研修会・研究会、並びに授業力養成講座が、誇りをもって、学び続ける教師の研修の場となり、三河の子どもたちの笑顔が増えていくことを期待してやみません。ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

「豊根源流怒涛太鼓」

撮影 豊根村立豊根小学校

佐々木 麻紀子 先生